

Detail of KOBE <49>

石坂 春生
写真／杉尾友士郎



バーが
バイノ



ティを
口千鶴



「
き

グ
タ

伝わる真ごころ
最高の風格



英国製 著名メーカー(仕立券付)13万円より
英国製 ドーメル社 (仕立券付)15万円より

⑤ 柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 TEL 341-0693
大阪・高麗橋2丁目 TEL 231-2106

男の生活

■スーツというのはね、毎日の生活に欠かせないものだから、何といっても身に合うことが一番。ウネは、僕にピッタリ合う上に、シルエットも美しい、動きやすいと、よく心得てくれているので、永いおつきあいです——

と語る寺崎忠夫さん

(寺崎建設株式会社・社長)

■寺崎さんは仕事柄、動きまわることが多いし、仕事場から会議場とか公式のパーティへ直行ということもあるという。ナチュラルな繊維と美しいシルエットへの帰還をいわれている紳士服、好みと個性を生かした洋服をモットーに神戸紳士に愛されるウネです。

世界のオシャレをお届けする

ウネ
KOBELINE

本店・神戸元町1番街・078-331-3112
別室・元町1丁目(穴門筋)・078-332-2800
東急百貨店・渋谷店・日本橋店・札幌店・吉祥寺店

「そごう」のテーマ

私はこれ。

—個性派時代—

7月の

画廊催しご案内

6階美術画廊

2/土～6/水

樹の連作

星 襄一木版画展

8/金～14/木

郷愁の民家に憑かれて

林 喜一郎油絵展

15/金～21/木

古刀から現代刀まで

日本刀剣展

22/金～28/木

鷺田新太・松井敏郎

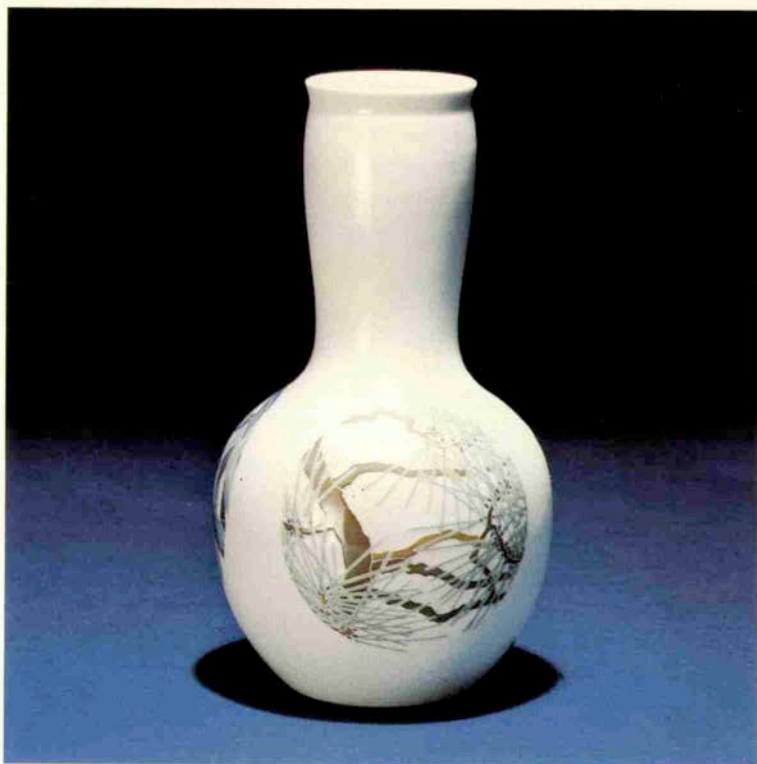
洋画2人展



神戸三ノ宮

そごう

〒470-221 4181



橋部彌次 作・彩延三友花瓶(1975年)

そごう
が選んだ

陶器の粋

題字・望月美佐

7月 目次

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帖です。

表紙・小磯良平
セカンドカバ／山本文彦

9 神戸っ子／通くらら／浮田 伸

13 ある集い／神戸二紀女流作家グループ

15 コウベスナッフ

16 イメージの神戸(4)／早川良雄

17 神戸のディテール(49)／石阪春生／カメラ・杉原友士郎

27 わたしの意見／三木淑三

28 随想／小林新二／大石楠提／西村真二郎

32 ある集いその足あと／伊藤悦子

34 私の交友録(新)／伊藤慶之助

36 神戸女学院と神戸(終)／岡本道雄

39 技術ジャーナル(118)／諸岡博樹

40 キャンペーン、ファッション都市神戸を導く(終)

43 ポートアイランドをファッション基地に

44 宮崎昌雄／外島健吉／木口 衛／牛尾吉郎／森本泰好

45 経済ホケッツジャーナル

46 特集 神戸の下町八景

47 文・専木 夫／クレイグ・リッター／志保見道雲

48 田辺聖子／中村 隆／武田芳一／名生昭雄／山本芳樹

49 絵・松岡寛一／知念正文／田中徳喜／小西保文(掲載照

第二回神戸文学賞神戸女流文学賞募集要項

50 ノコの華麗なる挑戦(3)／須磨琴入門／小山乃里子

51 話題のひろは／①ウシオ香港オーブン

52 ②劇団夜行館神戸興行

53 コウベファッションズ

54 アンド&神戸(19)／新井春美／カメラ・藤原保之

55 MODE MARCHEN(7)／篠原順子

56 神戸の僅し物ご案内(7月)

57 人間模様(第十八回)／横崎四郎／文・東森 守

58 動物園飼育日記(131)／亀井一成

59 神戸を福祉の町に(43)／橋本 明

60 ファッションレポート

61 KFSニュース

62 かわいそうなアリス／岡田 淳

63 淀長立見席(65)／細川 董

64 女性百景(59)／細川 董

65 びつとん

66 神戸百貨会だより

67 ボケットジャーナル

68 連載小説 ベットの真景(4)(第一回神戸女流文学賞受

賞作品)／小倉弘子／絵・南 和恵

69 連載小説 シールブラウンの神々(2)／田康 新

70 絵・松本 宏

71 トーク&トーク・アンド・ドラベルコーナー

72 アルファベットアベニュー(1)／新井 満・石坂春生

73 海船港／フォードル・シャリヤーピン号／橋本 明

74 カメラ・米田定蔵／藤原保之／橋本英男

75 目次作品・構成／丸本 耕

16

15B

15A

15

14B

14A

14

13B

13A

FUJI

FUJI

- SAFETY -

海見える会員制レストラン・バー『六甲クラブ』

9月 OPEN 会員募集中

AM12:00～PM12:00

(オーダーストップはPM11:00迄)

2F ●本格的なワゴンサービスで、吟味された料理とワインの数々をお楽しみください。

3F ●ピアノの調べが流れる 落ち着いたムードのバーで、心ゆくまでおくつろぎください。



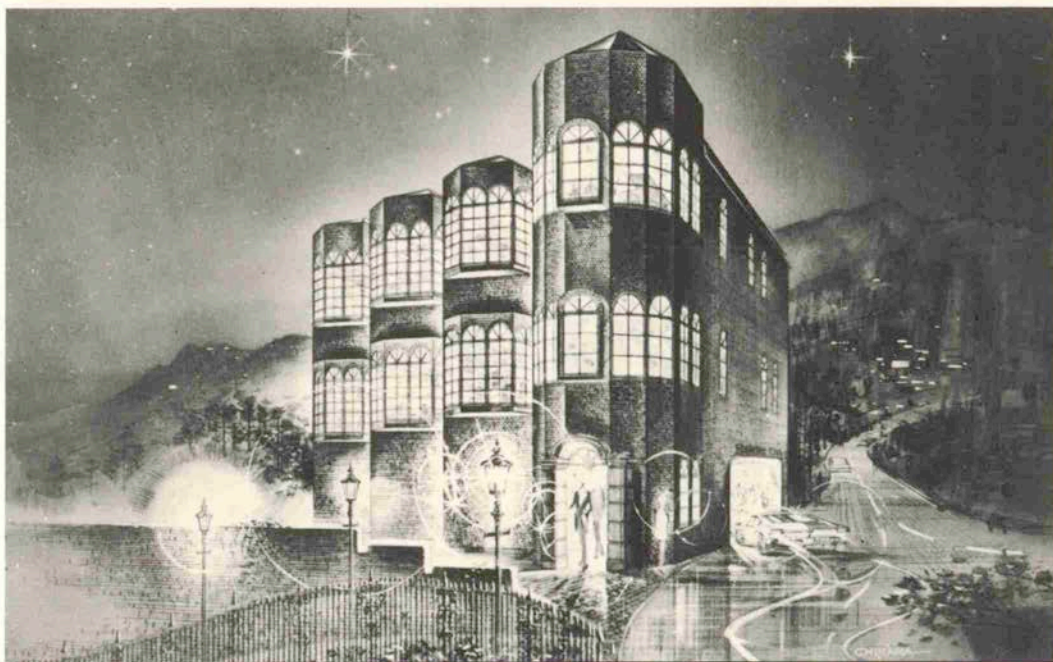
AM12:00～PM4:00 (予約制)

会員、または会員のご紹介者に限り、ご商談、ご会合、各種パーティなどにご利用いただけます。

(ご予約は前日までにお願いします)

TEL 神戸(078)882-3911

〒657 神戸市灘区六甲台町6-22



くわしいパンフレットご希望の方は、ハガキ又は電話にてお知らせください。

この夏、

あなたは何回、魚になるか。

FASHION PARK

神戸・三宮さんプラザ・センタープラザ3F

- (トータルコーディネートサロン)LIZA
- (婦人服飾)東京屋
- (舶来靴専門店)Pia
- (アクセサリー雑貨)ルイ・ミッシェル
- (ジーンズショップ)AOYAMA EIKO
- (COLLEGE SHOP)CABIN

- (婦人ブティック)ラ・ガミヌリー
- (婦人靴)東京銀座ダイアナ
- (ヤング&アダルトファッション)ルベール
- (ヤングアダルトファッション)ランブ
- (ファッションバッグ・アクセサリー)美呂
- (婦人服)原宿CAN

- (婦人服)銀座ゲルラン
- (レディース・ファッション)新宿高野
- (おしゃれな靴の店)BON フカヤ
- (コンテンツボラリーファッション)ザ・コレクション
- (レディースファッション)東京ギンザ三堂

by the window...



風と話をする
ブラウス。



株式会社

パール

7-1-2, Isogamidori,
Fukiai-ku, Kobe 651
tel. 078 (232) 3333

☆私の意見

世界に冠たる

神戸港

三木 瀧蔵

〈三共生興株式会社社長
神戸貿易協会最高顧問〉



神戸ほど風光明媚で住みやすいところはないですね。食べものもやすくて結構美味いし、住宅環境もいいし、景色がいい。港から見る神戸の景観はことの外きれいですよ。

神戸港はちょうど、扇が開いた形をしていて扇港といわれるように間口が広くて奥行が狭いが、天然の良港として非常に優れています。原口前市長が執念を燃やして現在の神戸港の繁栄の基礎づくりをして、宮崎現市長がそのあとを引き継ぎ、非常な熱意でもって原口プランの実行にかかり、完成しました。その点での宮崎市長の手腕は大したものだと思います。これまでの設備の上に、さらにポートアイランドをつくり、今また六甲アイランドの建設が進められています。ポートアイランドのコンテナ基地化によりコンテナ貨物取扱量では世界のトップになりましたね。世界有数の良港である神戸港は今、世界に冠たる存在です。

ただ、ビジネスのセンターとしてはちよつと弱い。しかし、東京や大阪の商社も神戸港の施設を利用しているわけです。地の利から考えて大阪の商社も神戸へ進出したら、神戸への刺激にもなり、いいと思うのですが、仲々そうも行かないようです。

神戸市は今、ファッション都市づくりを目指しているわけですが、ファッションは衣料とか家具とかだけじゃない。都市自体をファッション化することが大切です。ファッションという新しいもののばかりを考え勝ちですが、たとえばローマのように、古い伝統をいつまでも残す。北野町あたりの古い建物とか町並みを残す。古いものを残し、それによって神戸はいいところだと感じて貰う。神戸でなくては得られない新旧合わせたファッション都市づくりを考えるべきでしょうね。

ポートアイランドのインターナショナル・スクエアでのファッション街区構想は大変いいことだと思います。ただ、今すぐという話ではない。五年なり十年なりの歳月が必要でしょうね。

(談)

こうべに神戸らしい店を…

KOBE
NIKKEN



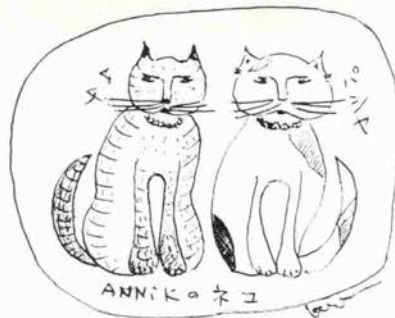
店舗装備のプロフェッショナル
(株) 神戸日建

本 社 神戸市灘合区御幸通3丁目2-20
☎ 651 (078) 251-3525(代)
東 京 東京都杉並区成田東5-39(201号)
営業所 ☎ (03) 393-1577番



コーヒーショップ「神戸亭」(センタープラザ地階)

随 想



え・大石楠葉

ネクタイの
はなし

小林 新一

△元町バザー社長▽



ネクタイの発祥はというとフランスのルイ十四世時代。欧州ではクラヴァットと呼んでいる。その語源はクロアチア（今日ではユーゴスラビアの一連邦）の軍隊がルイ十四世に任えるためにパリにやって来た時、将兵たちが首に巻いていた鮮やかな色彩の布が美事だったので、それがパリジャンの間で流行になり、クロアチアにちなんでクラヴァットと呼ばれるよう

になったもの。一七〇〇年代になって、カラー（衿）とネクタイの両方を兼ねた幅の広いストックを貴族や宮廷音楽家たちが自分たちで工夫して愛用したものが型になって残り、ベートルベン、パツハ、モーツアルトなどの名称を付けられるようになったとか。流行が英国に伝わりダービーと呼ばれる今日のような長いネクタイが現われたのは、一八六〇年代の終わりで、それ以来、シャツと分離したネクタイをこんどはシャツとコーディネートさせるために男の苦心が続いている。

先頃、スイスからミラノーパリと回り、最近のネクタイの動向を探ぐってみたが、イタリアとフランスでは、かなり様子が違うようだ。イタリアのネクタイは、そのほとんどがコモ（北イタリア、ミ

ラノ近郊の機業地）で生産されているが、かつての巾広の派手なものは姿を消して巾は完全に一〇センチ前後に変わってしまった。従って柄は、中、小柄、色もシックなクラシック調、エレガンスを感じさせるものにうつり替っている。さらにパリに舞い戻ってみると各オートクチュールの店々によって、巾は一センチ、一〇センチといろいろ。デザインもあくまでエルメスはエルメスの、シャネルはシャネルのものらしく、それぞれの特徴を強く打ち出している。パリでは、今年のラインはこうという定義づけは出来ない。流行品として扱うよりもあくまで個人の嗜好性を認めた上で、それぞれが自由に、個性的に装うことを楽しむいき方をしていると思われる。



18世紀のネクタイの型

パリの

友人

大石 楠妮

△彫金工房「サロンド・ダウ」主宰▽



パリへ来て半年になる。滞在三カ月目にしてこれはどうにかしなくてはと、教えてもらって、パリ大学の東洋語学部に張り紙をすることにした。第一行目、日本語で「日仏交換会話お願いします」と書いた。これ位の日本語なら学部の二、三年生は誰でも読めるとのことである。続けて習ったばかりのフランス語で「私はパリに来て三カ月目です。フランス語はほとんど話すことが出来ません」そしてできれば年頃の同じような人と知り合いになりたいと思い、生年月日と性別、名、電話番号を書いた。ポルト・ドーフィンにある大学の空手のボスターの隣りに、小さな紙を素早く押しピンで止めてなんだかドキドキしながら帰ってきた。午後の四時頃だったろうか。あくる朝の九時、電話が鳴った。「もしもし」と出てみると日本語で「ワタクシハ、アルフラン

ス人デス」と明るい女性の声がした。とても感じがよかった。彼女の名はアニック・デジュリ。「貴女より年は多いですが、まだ今でも勉強しています」と言った。私達は会う約束をした。(勿論日本語で)

大学の教室の前で初めて会ったその人は、40代半ば、小柄な感じの動作のキビキビした人で大学三年生であった。後で話をして解ったのだが、彼女は仕事を持っていた。日本でいうところの「弁理士」で自営である。おまけにグライダールの教師免状もあり、スキーもスケートもできた。そして日本には仕事も兼ねてすでに二度も来ていた。私は良い人にめぐり逢ったようだ。一週間に一度の割で忙しい彼女が時間をつくってくれて、フランス語の勉強をすることにしたが、それはほとんど彼女の家で昼食をしながらの雑談にと変ってしまふ。

ある日、私は聞いた「日本語は仕事のためにはじめての」いいえ日本語を勉強していたら日本の仕事が多くなったの。もっと勉強してたくさん日本の仕事が増えればうれしい。そうしたら日本に一年に二回行きたい。でも仕事に関係なく日本文学などを勉強したい」という返事であった。

数日後、新年に来る私の家族の

ための寝具をアニックの家から私のアパートまで彼女が車で運んでくれている途中、猛スピードの高速道路でカーブを廻りながら彼女はこんなことを言った。

「日本語は漢字などはよく解ります。けれど少し長い文章を読むのは私にとってはとてもむづかしいです。デモ私が80才になった時には……」

彼女は言葉をついたので私はめずらしくフランス語で後を続けた。

「まるで日本人のように日本語を喋ることができるようになります」と。

そして二人で笑った。私はここに同性の一人の先輩を見いだした思いがした。彼女が80才というのなら年をとってからの語学の進歩の遅さに良い加減うんざりしていた私はなんだか楽しくなってきた。私も「フランス語」を気長にやってみようかな……。この頃はアニックとオート・クチュールのショーを見たり、彼女の旦那様のダニエルも一緒にクリニャンクルの蚤の市へ行ったりしている。そして私のフランス語はと言うと一向に上達しない。アニックの上手ではあるがカタコトの日本語の上達もやはりもうひとつだ。これも仕方がないだろう。まだ時間は少ししか経っていない。なにしろ80才までなのだから。

アフガニスタンの

水

西村真一郎

△朝日放送第二報道部▽

アフガニスタン共和国へテレビ取材に行ってきた。この国の位置を正確に知らない人は案外多い。実は私もそうだった。でも正倉院の宝物がここを通ってらくだの背で運ばれた筈、シルクロードの十字路なんだ、と聞くとにわかに関近感を覚えた。あわせ聞いたキャッチフレーズが「砂漠の国」。これで納得できたこと、それはこの国へ派遣された私達三人のことである。丹羽老練、松岡新進、両カメランそして小生呑気とでもレッテルが張られよう。言うなら頭健トリオとしか形容のない人選をウチのボスはやってくれた。

さて、玄奘法師が大雪山と表現したヒンデュークシ山脈の上を飛んで首都カブールへ着いた。並木も芽ぶく三月、美しい街だったが空気の乾きと強烈な陽差には参った。干したパンツはすぐ乾く。これはいい。が、鼻もまたすぐ乾く。鼻の奥が始終痛く、鼻クソがあつという間に親指大に育ってコロコロンと出てきた。

街ではチャイハナと呼ぶ喫茶店が一日中賑っていた。ルンギー

(ターバンの事)を巻いた男がチャイ即ち熱い紅茶に砂糖をタップリ入れてチビチビやりながら長話をしていた。何と呑気な、と非難めいた気持は初日だけ。滞在二日目には自身全く同じペースになってしまった。これがいいのだ。まず鼻の奥の痛みが消えた。値は三アフガニー、二十円。小生、小学校の頃のコーヒー一杯の値でポツトくれる。実に理にかなった風習だ。水分補給になる。炎天下海抜千八百メートルのこの地で走ったら気絶ものだ。休むに限る。チャイハナの奥の方は分厚い布で仕切って女性専用コーナーになっている。回教の戒律厳しく、チャイハナでガールハントはできない。我々は行く先々でチャイハナに



遊牧民のテントの中で。左から二人目が筆者。(アフガニスタンにて)

とびこんだ。騎馬民族を追った北部・トルキスタン平原、遊牧民を待ち受けたハザラ高原突端、オアシスの秘密を探ったカンダハル地方。多少口巾が砂でざらついたリ器が汚れているのがまんじ、断続する下痢の洗礼にも耐えた。何しろ水が貴重なんだから。上水道があるのは四大都市に限られている。ひとつ砂漠の真ん中のおアシス村を見に行った。昨年神商大シルクロード踏査隊が走ったのと逆に、アジアハイウェイA1号を西に走りカブールから約十時間、クシユクナホというオアシスに着いた。大型バスとらくだの群が仲よくハイウェイ沿いのチャイハナ前に休んでいた。水場は少し砂で濁っていたが水量は豊富だった。天然の湧水だと思ったら違う。三十*も先の山麓の深井戸から手掘りのトンネルで水を導いた人工のオアシスだという。詳しくは七月十日午前九時から朝日テレビ「世界のどこかで」を御覧頂きたいが一千年もの昔、これを掘りあげた技術と執念に頭が下がった。

ところで取材班三人は奇しくも全員神戸っ子、水はなくとも命の水の方は毎晩欠かしたくない。ところが、回教国だからアルコール厳禁。苦しい旅でした。神戸に帰って「水」の苦勞がなくなつて喜んでる。

□ある集いその足あと

神戸二紀

女流作家グループ

伊藤悦子

△△記同人△△

女性のためのグループとは申しませんが、男女同権の世の中、一つの絵画や彫刻の分野の者も結束を固めてがんばろう——などと、大仰な意気込みで以て発足したのではありません。というよりも、先輩、同僚、あるいは知人の男性の方々の暖かい親切に支えられて初めて誕生することの出来たグループといっているでしょう。

美術家のグループは神戸にもたくさんあります。そんな中で、これはやや自画自賛めきますが、二紀会兵庫支部が精鋭ぞろいの、なかなか活発なグループの一つであることは、お認めになる方が多いのではないかと思います。中西



さんちかでの第2回展は好評でした

勝、西村功、鴨居玲、山本文彦という安井賞受賞作家四人を擁し、土岐国彦、青木一夫、伊川寛、奥村隼人といったベテラン以下およそ二百人の画家、彫刻家によって組織された集団です。実は私どもは全員がこの二紀会兵庫支部に所属しています。いわば同支部の下部組織といっているかと思えます。従来、私どもの研サンの場は、まず第一が支部主催の神戸二紀展でした。この活況は、一度でも出品したことのある方ならよくご承知でしょうが、非常に厳しい作品発表と併行して、全く楽しい懇親会によってもたらされていきます。絵や彫刻の勉強の場であると同時に、いわば人間関係の大切さを身を以て教えられる修養の場であるといっているでしょうか。

女の人が多くなったなあ、いっぺんあんたらだけで展覧会やってみたらどうや——と、現支部長の中西さんから話が出、他の男性メンバーや元町画廊の佐藤さんたち外部の方々のおおもりもあって、あれよあれよという間に実現しなくてはならなくなりました、というのが実情かも知れません。あんなに皆さん方がすすめて下さるのだから、失敗したらその時考えることにして、ともかくやってみましょうと、大西、高崎先輩の助言を受けながら現在のメンバーで発

足したのですが、現在のところまずは第二回展をし無事終了することが出来て喜んでいます。メンバーは現在二十人。年齢が二十代から五十代まで、独身もいれば所帯持ちもあり、職業も美術に関係のある人から全く無縁の人、また主婦業専念という立場の人もあり、いわば色々な意味で、バラエティーに富んだ顔ぶれです。ただ共通しているのが、美術の創作にたずさわることに生き甲斐を感じている、ということでしょう。

美術の世界に甘えは許されないので、このグループを一同で運営するにつれ、支部の男性の先輩、同僚の皆さん、さらに美術愛好家の大勢の外部の方々に、私たちは知らず知らずのうちに大きく甘えてしまっているのではないかと、反省させられます。ウーマンリブをひょうぼうして発足したのではない、と最初に申し上げましたが、その言い訳をいいことに、全く逆の世の中への甘えで今後の運営を考えたら、これはせっかくのグループ発足の趣旨をはき違えることにもなりかねません。まだまだ未熟な者たちの集まりではありますが、それはそれなりに、おごらず甘えず、お互いが励まし合って、少しずつでも前進して行けるグループとして存続させたいと思っております。

美術 古刀 骨董 剣書画

特別貴重刀剣認定
一貫斎繁継作
1,500,000円



特別貴重刀剣認定
大阪住月山夏勝作
2,500,000円

鑑定 買入
刀剣研磨その他工作
一ヵ月仕上 是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地

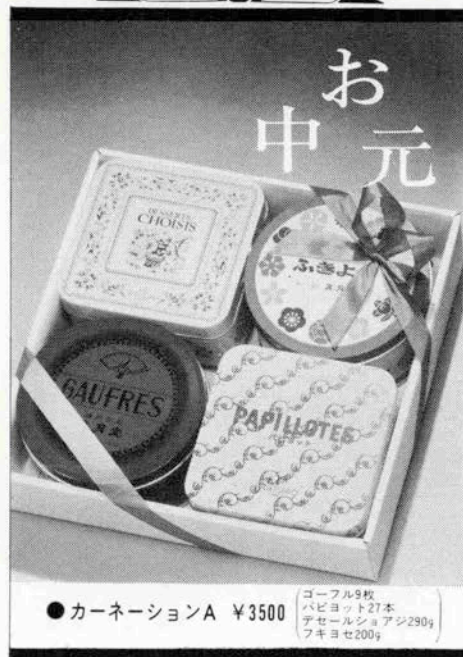
刀 古骨
剣 美術
董

〒650

元町美術

TEL078-351-0081

真心こめて
お菓子でごあいさつ



●カーネーションA ¥3500

ゴフル9枚
パピヨット27本
デセルショアシ290g
フキヨセ200g

創業 80 周年



神戸 月堂

本社 神戸元町3丁目 ☎(078)391-2412

□私の交友録 〈1〉

若き日の画家と作家達

伊藤慶之助

△画家・春陽会会員▽



大正7年頃の筆者。
友人の高桑義生氏が撮影

大正八年頃から昭和の初めにかけて、私達若い画家や作家を志す友人達は、東京で相当の貧乏生活をおくっていた。

当時の、ことに大阪のプチブルジョワの家庭では、子供が画家になるといえば、自分達の会社にみすばらしい恰好をして絵を売りにくる田舎廻りの画師としか考えず、俳優の河原乞食と同じように何となさけないことになったと頭から反対されてしまった。

私も大正六年に画家になるつもりで東京に出たが、油絵を扱う画商は一軒もなく、何かの方法で生活費と絵具代をかせがねばならないので、誰でもまず考えるのは雑誌のさしえと童話、大衆小説の類である。

当時、神田駿河台下の交叉点の前に中西屋（後の丸善神田支店）という書店があって「少女界」

という月刊雑誌が出版されていた。二階の編集室には童話作家の鹿島鳴秋編集長の許に、清水かつらと井口長治の二人の編集者がいた。

清水かつらは二十四歳位だったが、年のわりにませた感じの人であった。彼はすでに童謡の作家として「靴が鳴る」「雀の学校」の作詩で名を知られており、弘田竜太郎の作曲でレコードにもなっていて一般に歌われていた。「晴れたみ空に靴が鳴る」にしても「チーチーパッパ、チーパッパ」にしても五十年前の清水かつらの童謡がいまだに愛唱されているが、彼は年少で優れた才能を発揮したが、三十歳を過ぎた頃から段々良い作詩が生れなくなり、とうとう東京を離れて埼玉県の白子村に隠れ込んで百姓になり若くて世を去った。

もう一人の編集者井口長治も「少女界」の編集をやりながら大衆小説を書いていたが、清水かつらのように早く才能が現われず、徐々に文壇に頭角を現わしてきて大成をなした。今日大衆小説の大家として知られる山手樹一郎が、往年の青年編集者井口長治である。

また博文館には「日本少年」の石黒露雄、「講談雑誌」の生田蝶介の両編集長が居って、私達若い画家や若い作家の原稿の稼ぎ場であった。

博文館、中西屋などをアルバイトの稼ぎ場と心得ていたのは私達画家だけでなく、若い作家にも常連が居った。白井喬二、川口松太郎、前田孤泉（重信）、高桑義生などあったが、私は前田重信と特に親しかった。

東京の大震災で岩田専太郎の家が焼け、上野公園の近くの前田重信の家に岩田は同居して来た。私の家は根津藍染町だったので毎日のように逢っていた。岩田の妹で、京都に居た映画女優の港あき子が上京してきて、前田の家に一緒に住むようになり、やがて前田と結婚したが、しばらくして



大正6年の筆者作品「女」。同年、第8回日本産業博覧会に出品

別れて大連に渡り、アジアという名の高級バーと画廊を経営した女丈夫である。

やがて、前田重信は大阪に来て大阪時事新報の記者になり、時事新報が産経新聞に引きつがれて「週刊サンケイ」の編集局長から、後にサンケイ出版会社ができて初代社長になって死んだ。

幾年か前に、大阪サンケイホールで週刊サンケイの記念パーティがあつて、まだ生きていた岩田

専太郎、前田重信と山手樹一郎と私と四人顔を合せたことがあった。

昔は山手樹一郎（井口長治）の雑誌社へ前田重信（孤泉）が原稿を売りに行き今は前田のサンケイ新聞に山手が原稿を売る、まさに逆転であると笑ったことがあった。

サンケイ新聞や週刊サンケイに山手樹一郎と岩田専太郎のコンビの連載ものがよく出て来たのは昔の因縁関係であった。

岩田専太郎も大震災で東京の出版界が一時悪くなって大阪に来たが、大阪には大衆雑誌の出版元がなく、私は週刊朝日の赤松編集部長（後の作家土師清二）とサンデー毎日の名越国三郎編集部長に岩田のさしえをお願いして天下茶屋に家を借りてしばらく住んだこともあった。

大正の末年、さし絵専門の画家本田庄太郎、細木原青起などと、若き日の川端龍子も博文館の「日本少年」の表紙やさし絵を描いていた。ある日、私は清水かつらに連れられて当時湯島に住んでおられた川端龍子を訪ねたことがあった。まだ自分の絵だけで生活が出来ず雑誌の仕事をしていた。その時玄関に四角い木地の枕がたくさん積み重ねて置いてあった。清水かつらと川端龍子の對話を聞いていると、枕の木地に龍子が野草や虫、蝶などを描いて龍子揮毫の「風流木枕」を売り出そうと考案したが、買手がなくて大工に支払う手間賃も出てこないとのことであった。

閨秀画家と間違えられて地方の読者から「美しき龍子さまに」という男性からのラブレターが度々舞い込んで、雑誌社で話題になっていた頃である。

□神戸女学院と神戸△終△

百周年を迎えて

岡 本 道 雄 △神戸女学院院长△

え・伊藤慶之助



神戸女学院は昭和五十年十月十二日、創立百周年を迎えた。神戸時代五十八年、西宮市岡田山に移って四十二年——この関西最古の女子教育機関にとって、百年という一つの区切りはこれまでの過ごし方を振り返り、きたるべき未来を考える上での大きな出来事であった。

十月十日から三日にわたって記念行事がいろいろ行われたが、記念式典やガーデンパーティーには、国内各地だけでなく、海外からの来賓、卒業生の参列者も多く、港町神戸の雰囲気は今尚受け継ぐ神戸女学院にふさわしい国際色豊かな催しとなった。

とりわけ圧巻であったのは、当時の文部大臣永井道雄氏、コロンビア大学教授で日本研究家として著名なドナルド・キーン氏による記念講演であり、またこれに、祖父の代から神戸女学院と関係の深い同志社大学教授オース・ケリー氏を司会に加えてのパネル・ディスカッションであった。「日本文化と国際理解」というテーマの下に行われたこの講演会において、キーン氏は、今なお日本人の考えの中には「鎖国」の影響があることを指摘し、国際化のためには、日本人が「鎖国」の伝統から脱皮することが必要だと説いた。また永井氏は、国際理解の根本は「たおやめ振り」の人間付き合い——つまり外国人、日本人を問わず相手を「人間」として扱い、つねにやさしくサービスすることの必要性を説いた。そしてバ

ネルでの結論は、「世界文化圏の中の日本」を考えるとということであった。多くの聴衆に示唆と感銘を与えた講演会であった。そしてその一部はNHKの教養特集として、後にも全国にも放映されたのである。

百周年を迎えた神戸女学院は、現在学生、生徒数約三千、教職員約二四〇名、規模は決して大きいとはいえないが中学、高校、大学、大学院をもつ総合学園として着実な発展を続けて来たといえる。戦前、戦中には色々な苦難もあったけれど、一貫してキリスト教教育の伝統を守り、また外人宣教師等によるすぐれた英語教育や国際理解の教育の特色も戦前から戦後に引き継がれた。また昭和二十三年東京の四女子大学とともに他大学より一歩先に新制大学として認められ、女子では初めての正式の「大学」となった神戸女学院大学は、その後次第に充実発展して、現在学部五学科、大学院から成る大学となり、また従来の「高等女学部」も戦後、新制の中学部、高等学部へと再編成された。昭和八年神戸から移転した西宮岡田山の十四万平方メートルのキャンパスには、青々と緑が繁り、ヴォーリスの設計による当初の南地中海様式の建築群、またそれに調和するように建てられたその後の建築と共にわが国の学校・大学にはめざらしい恵まれた教育環境を形造っている。

神戸女学院が無事に百周年を迎えることができた陰には多くの人々の努力や支援があった。戦前のアメリカ人院長や宣教師たちの努力はもとよりのこと、その事業を受け継ぎ発展に尽力したのは戦後の日本人院長——畠中博、難波紋吉、有賀鉄太郎、小宮孝の各院長であり、またそのもとでの教職員であった。そしてまた戦前、戦後を通じて神戸女学院に大きな精神的、物質的援助を惜しまず与えてくれたのは、米国シカゴにある後援団体——コーベ・カレッジ・コーポレーションであり、また一万五千名の神戸女学院同窓生たちであった。さらにこの他学院の理事その他の役員として奉仕的な協力を惜しまれなかった各界の有力者、後援者たちの多くあったことも

忘れてはならないだろう。創立に尽力された元三田藩主九鬼隆義氏をはじめとして、戦前の校地拡張、岡田山移転に尽力されたクリスチャン・ガバナー——元兵庫県、神奈川県知事有吉忠一氏、戦後の財政再建の功労者小菅金造氏、また長年後援会長として募金に奔走された松原与三松氏（元日立造船会長）また戦前、戦後二回にわたって長らく理事長を務められた国際的な弁護士湯浅恭三氏等とはとりわけお世話になった人々である。

百周年ということは一つの学校にとって大きな出来事であるが、それは単に過去を懐古し、過去を美化するためのものではないだろう。それはまた新しい未来への出発を決意する時でもある。

最近「私学の特色」ということがよく言われるが、私は神戸女学院にとっての新しい課題とは今までの伝統を受け継ぎながらも、これを新しい時代にふさわしく創り直し、神戸女学院の新しい特色が発揮できるような教育の開発を心がけて行くことではないかと思っている。

神戸の町ではぐくまれた神戸女学院の「国際性」の教育も、今後は単に英語教育や欧米への留学生の派遣ということにとどまらず、アジアを含む外国留学生の受け入れや海外からの帰国子女受け入れといった新しい視点を含めて考えられねばならないだろう。またこれからの「女性の教育」は単に結婚までの教育ではなく、「生涯教育」の観点から、本当に「女性の一生」に役立つ教育は何なのかということを積極的に考える必要がある。そして、キリスト教人間教育の立場からは、神戸女学院が本来の意味で「人間らしい人間を育てる」学園であるためには、どのような努力や工夫が必要かをたえず考え続けて行かねばならないと思うのである。

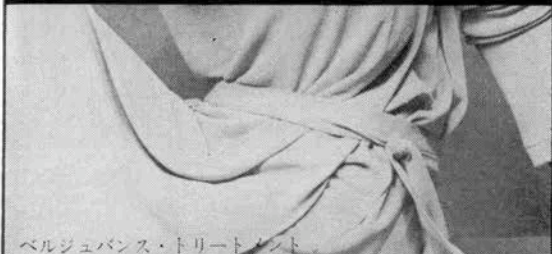


本 道 雄

昭和四年、芦屋生まれ。京都大学教育学部、及び同大学院卒。同助手を経て、昭和三十五年より神戸女学院大学文学部で教鞭を執る。四十七年四月より同大学学長。今年一月から同女学院院長。日本私立大学連盟及びキリスト教学校教育同盟理事。アメリカ学会評議員。



Natural Hair is Beautiful



ベルジュバンス・トリートメント

株式会社 美容室

エリザベス

本店 三宮神社北東三上ビル2F TEL.331-8894・4917

芦屋支店 芦屋市阪神芦屋駅山側 TEL.0797-22-4067

お貸衣裳部

花嫁衣裳サロン

東京初代遠藤波津子直流

畑尾芙久子の店

生田神社前通 TEL.331-3258

専属結婚式場 生田神社会館・オリエンタルホテル・阪急六甲山ホテル・蘇州園・海皇



き
もの
と
細
貨

おんがら屋

神戸

本部・仕入部 神戸市東灘区青木五丁目一五〇一九 電話〇七八四五一五二九〇(代)
本 市街地改造により工事中 昭和五十二年未成予定
さんちか店 神戸市生田区三宮町一丁目一 電話〇七八三三三二一七〇〇

銀座コア店

東京都中央区銀座五丁目八二〇 電話 〇三三三七三五二九八(代)

渋谷東急店

(四階きものコア)
東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一 電話 〇三四七七三四〇九(直)

日本橋東急店

(五階和装名家街)
東京都中央区日本橋通一丁目九二 電話 〇三二二一〇五一(代)

池袋バルコ店

(四階和装名家街)
東京都豊島区南池袋一丁目二八二 電話 〇三三九八七〇五六一(直)

(四階きもの小路)

★技術ジャーナル<118>

ソナー

Sonar, Sound

Navigation and Ranging

諸岡 博熊 <神戸市企画局参事>

ソナーとは、音波を用いて水中での目標物の探知や位置決定のための方式とその機器をいう。これに対して、地上や空中では、レーダーという専ら電磁波を用いて同じ目的に利用するシステムがある。

ソナーの特性は、①波動の伝播速度が空中の二〇万分の一であること。②海洋は音波の伝播にとって決して良好な媒体でなく、複雑に変化する海洋環境状況で極めて大きく影響されることである。

このような特質を踏まえて、そのシステムをみる必要がある。

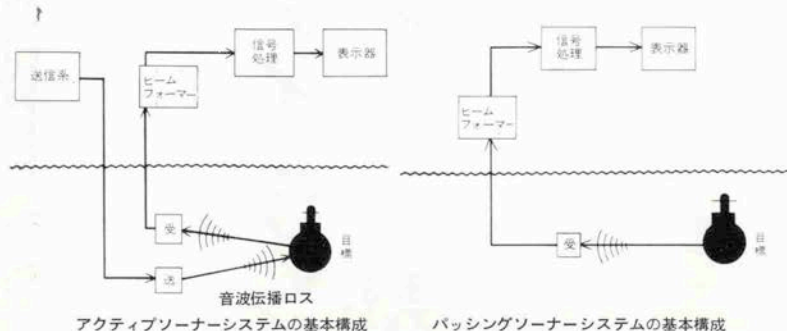
まず第一にあげられるのは、その種類であるが、大別して、アクティブソナーとパッシブソナー

に分類される。

アクティブソナーとは、レーダーと同様に自ら信号音を海中に放射して、目標物からの反響音を受信して、その方向と距離を求めるタイプである。

パッシブソナーとは、航走する潜水艦自身から放射される水中音を待ち受けて、その存在を確認するシステムである。

アクティブタイプは、目標物の



位置を点としてとらえるが、音波が目標物との間を往復するため、エネルギーの伝播ロスが大きい。その上、相手側の潜水艦も当然のことで、パッシブソナーで監視をしているから、この探索行為を発見されて逃走されてしまう。

パッシブタイプは、比較的隠密性を保たれるが、せいぜい伝播方向が求められるにすぎない。

第二に、ソナーの最大の特徴は送受波器ですなわち、水中音響エネルギーと電気エネルギーの変換器の機能である。

ソナーは、その特性を生かして使用される。

アクティブタイプは、水上艦の艦底に固定したり、また、曳航したりする。飛行艇やヘリコプターから吊り下げ使用したりする。

パッシブタイプは、ソノブイを対潜哨戒機から投下する方法とか、潜水艦の頭部に固定したり、船舶が曳航したりする。その他、海底や海中に固定設置する使用方法がある。

ソナーの最大の問題は、反響音や船舶航行音から、それが目標物であるかどうかの分類判別方法の確立であろう。しかし、これは極めて困難な命題であって、世界の技術の最先端は、ここに集中している。